

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校新聞部
建築同好会号
編集：月・着

建築同好会うみのご模型台贈呈式



部長 師橋和弥 (3年) 福永 教育長
副部長 前田佳彦 (3年)
部員 坂本泰知 (2年)

↑新しいうみのご模型は、日本で製図され、ベトナムで組み立てられた。サイズは実物の50分の1。費用はなんと50万円。建築同好会が作った台は9月までうみのご展示台として教育長室で活躍する。その後は、事務机として教育長室で利用される。 校長室で

3月27日に本校で建築同好会が製作したうみのご模型台が県教育委員会に贈呈された。

2月に製作を始めて総作業時間14時間で作られたうみのご模型台。県教育長の福永忠克さんが来校され、建築同好会は感謝状と記念品をもらった。今年9月までうみのごの台として教育長室に飾られる。



↑BBCの取材に設計図を使って説明する坂本くん

「100点中120点の出来栄え」

教育長の福永忠克さんに、はじめて実物を見てどう思ったのか尋ねた。

「100点中120点いや、もっとかな」

「安全面や、事務机としても使えるように工夫されていて感動した」と建築同好会が工夫した部分を高く評価された。

作業は1週間程度で、急ピッチで作上げた土台だが、安全面や模型展示台としてだけではなく、その後も有効活用してほしいとの思いを込め両面使用が可能になっている。展示台として使用する際は、天板が琵琶湖をイメージした青色のプラ板の面を表面にする。天板を裏面にすると木目板が出てくる仕様で、事務机に早変わりするのだ。



←取材前に余裕を見せる3人



→感謝状を受け取る師橋くん

贈呈式前にBBCの取材を受ける建築同好会の師橋くんら3人。いざ贈呈式が始まるとテレビカメラも回りだした。師橋くんらは、緊張しながらも教育長の前で組み立てを実演し、教育長から直々に感謝状と今後の活動で使える記念品を受け取った。その後贈呈した展示台に、うみのご模型を乗せ、記念撮影を行った。BBCの取材終了後に、師橋くんらは「緊張しすぎて答えるのに精いっぱい余裕がなかった」「何を話したか覚えていない」と語った。

初テレビ取材にドキドキ

なぜ本校の建築同好会に依頼を？

うみのご模型台の製作に、本校建築同好会が候補に挙げたのは、教育総務課の村田 佳志実さん(上記写真左前)が八工を推してくださったからだという。村田さんは日ごろ県内の学校を訪れており、来校された際に建築同好会の作品を見たそうだ。「八工はものモノづくりに熱心に取り組んでおられる。建築同好会が授業で使用する棚などいろんな作品を日ごろから作っておられるので、この子たちに作ってほしいと思い、八工建築同好会を推したんです」と笑顔で語ってくださった。目立ちにくい文化部の日頃の活動を認めてくださったことに、取材で同行した新聞部の面々も、非常にうれしい思いだった。



贈呈式の後、校内の作品を見てまわる教育長 ↑

「県から依頼がくるとは」

建築同好会の部員は依頼の話を知ったとき驚いたと同時に、うれしさややる気が込み上がったそう。部長の師橋くんは「部員全員で、使っていただく方に安心安全で、喜んでいただける作品を作ろうと製作に取り組んだ」と誇らしげ。副部長の前田くんは昨年6月に琵琶湖でうみのごを目にして「あの船の模型を乗せる展示台を作れるのかと思い、うれしかった」という。1年の坂本くんは「県の方から褒められるようなものを作りたい」と思い頑張ったという。